

11 道 徳

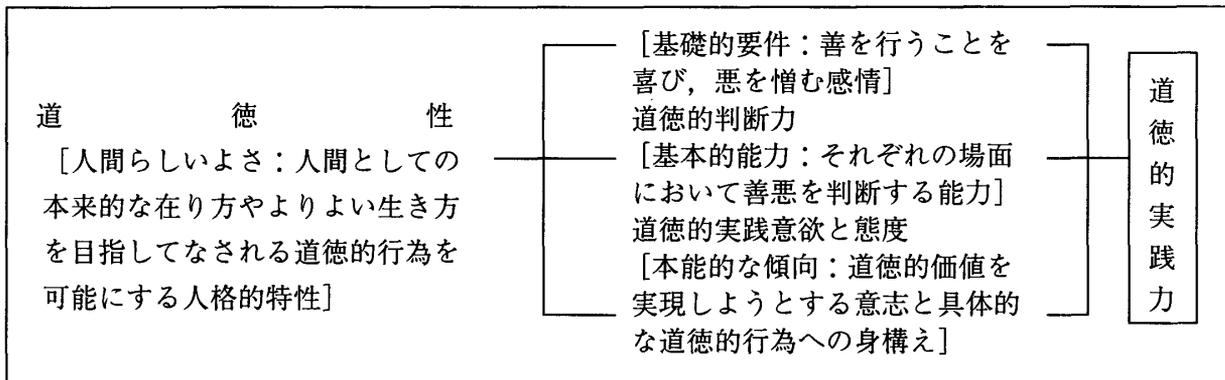
— 豊かな感性を育む道徳教育 —

道徳教育プロジェクト

1 道徳教育で「豊かな感性を育む」とは

今回の学習指導要領の改訂で期せられている「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成」にあって、「よりよく生きたいという願いの実現を目指して生きようとする」¹⁾ 基盤としての道徳性を養う道徳教育の役割は、より重要になっている。

『小学校指導書道徳編』を参考にすると、この道徳性は、次のように捉えることができる²⁾。



『豊かな感性を育む』私たちの教育研究にあって、道徳教育の視点からは、「道徳的心情」という道徳性の基礎的要件に着目したい。「道徳的心情」については、次の指摘がなされている³⁾。

道徳的価値を身につけるのは、一般的には、知的理解からなされるよりも、もっと直観的であり感性によることが多いと思われる。当然、知ることに伴って生起する感情の側面のあることも否定できないが、特に道徳的価値に対しては理屈や論理で理解した後に感情的な側面がついてくるといっても、むしろ直観的な感覚、直観的な認識に基づくことのほうが多い。

道徳性を養ううえで、《わかる》知性ととともに《感じる》感性が重要なのである。そのため、道徳の時間を、ねらいとする道徳的価値について、その子なりに感じたり思ったり想像したりする場として構成していく必要がある。

2 『豊かな感性を育む』道徳の時間の指導の重点

道徳プロジェクトでは、昨年度から、豊かな感性を育む道徳の授業づくりのポイントとして次の5点を提案し、授業実践への具体化に努めてきている⁴⁾。

- ① 道徳の授業に向けての雰囲気づくりが行われていること。
- ② 児童がすでにもっている見方・感じ方を意識化させながら、学習に入ること。
- ③ 資料の中の場面に児童が自分の思いや豊かな想像をもって入り込むことができること。
- ④ 感じたことを自由に表現できる場が保証されていること。
- ⑤ 授業後も児童の心が豊かにふくらむような終末であること。

学習に入る前提 (①)、授業の導入部 (②)・展開部 (③④)・終末部 (⑤)、それぞれの重点

事項を示したものである。

昨年度実践事例においては、①では、ねらいとする道徳的価値にかかわる場面を日常生活の中で意図的に設定する。②では、本校道徳授業で多く位置づけられてきた「経験の想起」でなく、道徳的価値に関わる事例を提示し役割演技を通して意識化させること。③④では、役割演技を通して道徳的価値の追求を深めること。⑤では、今後の学習につなぐ場として、授業における意欲・態度について振り返る活動を位置づけること。などに工夫を加えてきた⁵⁾。

本年度の教育研究においても、これら5点を『豊かな感性を育む』道徳の授業づくりのポイントとし、より一層の具体化を図ってきている。本年度は、②③について若干の提起を行い、授業研究を通し、その効果を検討した。重点とした②③についてその概要を述べると、次の通りである。

(1) 導入部の工夫

本時の展開部で行う活動場面や価値内容への伏線として、導入に多様な「動作化」「役割演技」や「ゲーム」「エクササイズ」といった具体的な活動を位置づける。口頭発表に片寄りがちな「経験の想起」に比べ、子ども一人ひとりの心身のリラックス（開放）、展開部で扱う主人公の道徳的心情や行為への共感をより一層促すことができると構想している。後に掲載する須山教諭実践「心にひびく思いやり」では、＜拍手の数だけ集まるゲーム＞と＜二人一組での目隠し歩き（トラストウォーク）＞⁶⁾とを導入部に位置づけ、相手の心や体を思いやることの大切さといった価値内容への伏線とすることを意図してみた。

(2) 展開部の工夫

資料の場面に思いや想像をもって入り込む場では、視聴覚に訴える資料提示の手だてに加え、導入部の活動を生かした問いかけや考える活動を位置づけることで、その子なりの感じ、思い、想像を促すことができると構想している。須山実践では、B. G. Mとペープサートを併用した資料の読み聞かせや再度のトラストウォークを位置づけ、共感的な資料の扱いを意図してみた。

エクササイズの概要	
トラストウォーク	
ね ら い	二人一組で目隠し歩きを実験する事により、人への思いやりと信頼の大切さを体験する。
方 法	二人一組でペアを組み、一人が目隠しをし、もう一人は言葉を使わないで、目隠しした人を連れて校舎内を散歩する。役割を交換して行う。
振 り 返 り	この体験を通してうれしく感じたこと、二つの役割を取ってみて感じたことを書く。

3 今後の課題

具体的な活動を位置づけた導入は効果的であるとは言え、資料内容や読み取りに即した活動を選び、学級の実態に応じ設定していく必要がある。資料でねらう価値内容の伏線となる最適な活動を実践を重ねるなかから、指導計画に盛り込んでいきたい。なお、このような導入の工夫は、他教科や領域で生かすことによって、道徳の時間の指導へ響くものと思われる。活用を図っていきたい。

----- 註 -----

- 1) 文部省『小学校指導書道徳編』1989年，1頁。
- 2) 前掲書，14～15頁。
- 3) 瀬戸真編著『道徳性の育成を目指す授業実践の改革』ぎょうせい，1991年，6頁。
- 4) 研究紀要『豊かな感性を育む』本校刊，1994年，174頁。
- 5) 前掲書，175～180頁。
- 6) 国分康孝『構成的グループ・エンカウンター』誠信書房，1992年，70頁。